

TDB 圏域別景気 DI (2020 年 9 月)

景気 DI、圏域によっては 50 台まで回復

～ 2020 年 9 月は、130 圏域のうち、99 圏域で前月から持ち直し ～

データソリューション企画部

池田 直紀

TDB 景気動向調査 (2020 年 9 月) の景気 DI は 4 カ月連続で前月比プラスの 31.6 となった。主に、堅調な公共工事や連休中の外出増、緩やかに上向いた設備投資意欲などがプラス要因となった。本稿では、全国 47 都道府県を 130 の圏域に分割し、特に景況感が改善している各圏域の直近の動向を捉えた。

1. 「徳島南部」の景気 DI は 50.0 で、130 圏域中トップとなった

TDB 景気動向調査 (2020 年 9 月) の景気 DI は 4 カ月連続で前月比プラスの 31.6 となった。圏域別にみると、8 月と比べて 130 圏域のうち 99 圏域で改善となり、29 圏域が悪化となった。横ばいは 2 圏域だった。

圏域別の順位は、徳島県阿南市などの「徳島南部」が 50.0 で最も高かった。前月比 33.3 ポイント増で、ノート PC やタブレット端末向けの LED を中心とする光半導体関連が好調な『製造』や『建設』の改善が大幅に景況感を押し上げた。次いで、『小売』や『建設』が高水準となった高知県南国市などの「高知東部」が 43.9 で続いた。以下、広島県三次市などの「備北」(41.7)、北海道北見市などの「オホーツク」、佐賀県唐津市などの「佐賀北部」(ともに 41.0)、宮崎県都城市などの「都城北諸県」(40.8) が 40 台で上位に並んだ。

2. 「高知東部」が 4 カ月連続で 40 台を維持

2020 年 6 月から 9 月までの 4 カ月における景気 DI 上位 20 圏域をみると、高知県南国市などの「高知東部」(6 月 42.3、7 月 44.9、8 月 42.9、9 月 43.9) が唯一 4 カ月連続で 40 以上となり高水準を維持した。企業からも「災害復旧工事のため、やや良い」(建設、高知東部) といった声があげられていた。鹿児島県鹿屋市などの「大隈・奄美・熊毛」(同 38.3、同 35.2、同 38.0、同 39.5) や福島県いわき市などの「浜通り」(同 37.7、同 37.2、同 38.3、同 35.8) でも、同様に災害復旧工事などの公共事業がプラスに寄与し、30 台後半で推移した。

また、北海道北見市などの「オホーツク」(同 39.1、同 35.3、同 34.8、同 41.0) や帯広市などの「十勝」(同 35.3、同 34.4、同 38.4、同 38.8) では、濃淡はあるものの 30 台中盤から 40 台となっている。同一都道府県内であっても景況感に差異が生じており、その事実をつかむことは企業活動を行う上で重要となろう。

¹ 企業が実感する地域の景況感により近づけるため、地域の経済的なつながりや交通網などを考慮し全国 47 都道府県を 130 の圏域に分割して、圏域別景気 DI を算出

表1 2020年6月から9月における圏域別景気DI（各月上位20圏域）

順位	6月			7月			8月			9月		
	都道府県	圏域	景気DI	都道府県	圏域	景気DI	都道府県	圏域	景気DI	都道府県	圏域	景気DI
1	高知県	高知東部	42.3	高知県	高知東部	44.9	広島県	備北	45.8	徳島県	徳島南部	50.0
2	北海道	オホーツク	39.1	宮崎県	都城北諸県	40.0	高知県	高知東部	42.9	高知県	高知東部	43.9
3	鹿児島県	大隈・奄美・熊毛	38.3	北海道	道北	39.5	大分県	大分東部・北部	41.7	広島県	備北	41.7
4	福島県	浜通り	37.7	佐賀県	佐賀南部	38.3	北海道	十勝	38.4	北海道	オホーツク	41.0
5	千葉県	千葉南部	37.5	福島県	浜通り	37.2	福島県	浜通り	38.3	佐賀県	佐賀北部	41.0
6	熊本県	県南・天草	37.1	岡山県	美作	37.1	鹿児島県	大隈・奄美・熊毛	38.0	宮崎県	都城北諸県	40.8
7	北海道	十勝	35.3	沖縄県	県南部・宮古・八重山	36.0	北海道	道北	37.9	鹿児島県	大隈・奄美・熊毛	39.5
8	北海道	道北	33.3	青森県	津軽	36.0	奈良県	奈良中和	37.9	千葉県	千葉南部	38.9
9	福島県	会津	33.3	福岡県	筑豊	35.9	熊本県	県南・天草	37.9	佐賀県	佐賀南部	38.9
10	群馬県	吾妻・利根沼田	33.3	福島県	会津	35.4	岡山県	美作	37.7	北海道	十勝	38.8
11	宮崎県	宮崎県北部	33.3	北海道	オホーツク	35.3	佐賀県	佐賀南部	36.5	熊本県	県南・天草	38.6
12	山形県	庄内	32.7	鹿児島県	大隈・奄美・熊毛	35.2	高知県	高知市	36.3	高知県	高知西部	38.5
13	青森県	下北・三八上北	32.6	熊本県	県南・天草	34.9	埼玉県	秩父	36.1	高知県	高知市	38.3
14	秋田県	秋田県南	32.6	山口県	宇部・美祢	34.5	秋田県	秋田県北	35.6	大分県	大分東部・北部	38.0
15	高知県	高知市	32.6	北海道	十勝	34.4	福島県	会津	35.4	奈良県	奈良中和	37.9
16	岡山県	美作	32.4	奈良県	奈良中和	34.4	宮崎県	都城北諸県	35.3	熊本県	熊本県北	37.3
17	秋田県	秋田県北	32.3	愛媛県	中予	34.4	大分県	大分中部・南部・西部	35.1	山口県	宇部・美祢	37.0
18	愛媛県	中予	32.3	宮崎県	宮崎県北部	34.3	熊本県	熊本県北	35.1	北海道	道北	36.9
19	和歌山県	和歌山南部	32.2	大分県	大分東部・北部	34.2	青森県	津軽	34.9	沖縄県	沖縄中部・北部	36.6
20	福井県	嶺南	32.1	大分県	大分中部・南部・西部	33.6	北海道	オホーツク	34.8	福島県	浜通り	35.8

まとめ

本稿では、TDB 景気動向調査の景気DIについて、全国を130圏域に分割し、2020年6月から9月までを圏域別に算出した。4カ月連続で唯一40台となった「高知東部」のほか、「大隈・奄美・熊毛」や「浜通り」では建設業を中心に堅調な公共工事などが起因し、他圏域と比較して景況感は良化していた。他方で、8月トップとなった「備北」や9月トップの「徳島南部」などでは、製造業がけん引していた。圏域に根付く産業によってその改善要因は異なっており、地域の景況感の特徴を把握するうえで重要となる。

また、北海道や四国、九州をはじめとする地方にある圏域の回復が目立っており、東京・名古屋・大阪など3大都市圏にある圏域は、一部を除いて各月上位にあがっていない。景況感の上向き傾向は、地方で徐々に表われているものの都市部ではあまりみられておらず、日本経済の中心を担う圏域で好転することが期待される。

【問い合わせ先】

株式会社帝国データバンク データソリューション企画部 産業データ分析課

池田 直紀

03-5775-3163 keiki@mail.tdb.co.jp

帝国データバンクで毎月実施している TDB 景気動向調査にご協力いただける企業さまは、こちらから登録できます（スマートフォン等をお使いの方はQRコードからも可能です）。

<https://www.tdb-di.com/ent/rent.html>



当レポートの著作権は株式会社帝国データバンクに帰属します。著作権法の範囲内でご利用いただき、私的利用を超えた複製および転載を固く禁じます。